

次世代の仲間へ。

「14 春闘、西日本討論長崎集会で、次への飛躍を」

2014/1/18(中島義雄)

1、はじめに。

郵政産業労働者ユニオン長崎中郵支部の仲間のみなさん。

そして、全国の働く仲間のみなさん！

長崎全労協と郵産ユニオン長崎は、2014 年春闘・西日本春闘討論集會を 2/22～23 に長崎で開くようにとの関係者からの要請を受け入れました。

全労協などの西日本春闘討論集會が長崎で開かれれば、25 年目にして初めてのこととなります。

なぜこれまで長崎で開かれなかったのか。これを一言でいうと、郵産ユニオン長崎に力がなかったからです。

全国集會を地方で、とりわけ日本の西の果の町で開くことは容易ではありません。闘い(集會)には金、人、力が必要です。また全国の仲間の信頼も必要です。これが足らなかった。これが理由です。

2、長崎集會の背景。

この長崎集會の背景には、労働界の激変と、厳しい現実があります。

今年の春闘は、アベノミクスの労働破壊との闘いです。もしこのまま労働界がこれを許せば、労組はあつて無きが如し的存在となります。労組が労働者を守れるのは、労組(労働者)の闘いと、それを保護する労働者・労組保護法があるからです。これが破壊されるのですから、まさに働く人は生死をかけた正念場です。

二つには、この攻撃を先取りし、企業特区的(法の適用除外)な郵政があります。この 4 月から規制緩和の目玉=限定正社員の新一般職、新人事・給与制度と成果主義のさらなる強化の 2 割賃金カットを原資とする新業績手当が始まります。連合・多数派 JP 労組は、昨年 of 全国大会でこれを容認し、この春闘もストなし、賃上げ自粛の姿勢で、まさに会社を支える第二労務部と化しました。

これと闘う人は郵政産業労働者ユニオンやいくつかの独立労組、あるいは JP 労組内部の良心的反対派以外にありません。なかでも郵産ユニオンはスト権確立へ向けて 2 月の中央委を成功させ、闘い始めます。

第三に、敵の攻撃が、協調か否かを問わず、労組の存在すら許さない質の攻撃をかけてくるとき、日本の労働界が路線の違いを理由に 3 鼎立したまま、各個撃破されることは、たんなる怠慢でなく、ある意味、罪深さも感じます。しかもこれは数年先とかいう問題ではなく、文字通り喫緊のことなのです。

こうしたことから私たちは、2 年前に労組統合を選択しました。全労協・郵政ユニオンと全労連・郵産労が統一して、ともに会社や国に立ち向かう。これが、現在、苦しい攻撃を受けている職場の働く人たちと、労働界の明日に希望を託す、一つの道でもあります。私たちは、組織統合は正しかつ

たと思います。AもBもCも一緒に闘えば、力は三倍になりますし、組織統一はわずかながらも勝利への手がかりとなります。

そして四に、この時期に課題や場所を九州で選ぶとすれば、郵政長崎がベストではないか、という九州内の全労協の各労組が決断したからです。

3、厳しい九州の少数派労組の実態。

しかし、九州の全労協や闘う労組の現実には正直、非常に厳しいものがあります。一昨年の全福郵労の解散、また去年9月の郵産ユニオン長崎北支部の解散、そして昨年12月4日の三菱長船労組(第3組合)の解散は、他人事ではありません。少数反対派労組の明日を示します。もし、同じ反対派の立場をとる郵産ユニオンも闘いを怠れば、同様の明日があり得ます。民主的な独立労組、全労連、全労協、それぞれに路線の違いはあっても、会社や国と闘う労組への、国や会社、あるいは協調派・連合労組の攻撃は執拗に続くからです。これが戦後の労働運動の例外のない歴史的現実です。

4、次世代へのバトンタッチで壁を破る

これまで長崎の郵産ユニオンは、長崎の闘いを大切にしながら、しかし、全国の闘いにも関わってきました。しかし、郵崎労の結成25年を経て、実態は苦しい状況で、次世代へのバトンタッチも課題です。

郵崎労を作った「反連合・全労協」の精神を大切にしながら、多くの人たちと交わる。そして、このような全国の闘いである長崎集会などをしっかり担い、次世代へ運動と組織と人をつなぐことが重要です。長崎集会の意味は長崎の視点からいうなら、これが出発点です。

郵崎労や郵政ユニオン時代、私たちは幾度か困難な事態を、その都度みんなの力や、全国の仲間の支えで突破してきました。これが長崎の力です。

90年の郵崎労結成のときも40人の決起に始まり、現在まで105人が組織に参加し、現在につないできて、今は退職もあり仲間は35人です。

91年の郵政全労協(8労組の協議会)の旗揚げのときは、全国労組交流会の仲間・全福郵労との決別を覚悟し、その後、郵政合同(仙台)とも組合のありようをもって別れました。

また2004年の郵政ユニオンへの単独労組・全国统一のときも、2012年の郵政産業労働者ユニオンへの組織統合のときも、分裂の危機を乗り越え、まさに捨て身で闘った結果が、今日です。

壁は破ってみれば、案外「なんでもなかったんだなあ」と思えることがあります。目がくらむ高みも、登ってみれば、それほどもないことはよくあることです。

長崎での全国集会のような重たい全国の壁は、福岡も北九州も、そしてなによりも全国の郵政ユニオンが歩んできた道と、乗り越えた壁です。長崎は20年も遅れていますが、必ず破れることを信じて取り組みます。

5、全国集会は多くを学ぶ場。

郵政産業労働者ユニオンは会社の一方的な効率化に反対し、働く人を守る

ために「闘う」労組で、社会的には反対派労組といわれます。全労協はそうした人々の集まりで、その人たちの闘いを学べば、自分たちの日々の生き方、闘いはどうあるべきかが見えてきます。これが全国的視野と呼び、道を誤らない基本です。

自分の部屋の閉じこもったままでの狭い視野、あるいは小さい周囲の環境だけでモノを見るときに、生物には進化は起こりませんし、新しい環境に適応した組織・人の適者生存もあり得ません。

これを体験させるのが全国集会です。このような全国集会はどんなに労力や金、時間を使っても成功があれば、得るものは大きいものがあります。

6、長崎春闘集会の課題。

今度の長崎春闘集会の課題は郵政で、その焦点は二つです。

一つは、アベノミクスの労働破壊を先取りする郵政の労使一体での正社員の職場の権利の破壊。非正規の固定化などでの日本一の非正規会社・ブラック企業との闘いがあります。

二つは、一昨年、全労協・郵政ユニオンと全労連・郵産労の組織統一をなした新労組の二年の闘いの総括。これらを全労協としてどう総括するのか。

この二つの課題を郵産ユニオンが総括し、それを全国的に討論・整理することは極めて大事です。

こうしたことから九州で拠点的に闘う長崎集会は、時機も場所も課題もベストだとして、14春闘への意思一致を図る。これが集会の目的と獲得すべき課題です。

孤立無援、四面楚歌から反転攻勢をくり返しての再起。これを信じて、郵産ユニオン長崎は闘い、危機を突破してきました。

そしてようやく、全国の仲間が長崎を信じて、「集会開催」を要請してきました。ここは期待に応じて、集会成功を勝ち取る責任が長崎にはありません。

このとき初めて全国は長崎が郵政ユニオンだけではなく、長崎全労協なのだと認めてくれる瞬間なのです。

具体的には、全国から「長崎にきてよかった」と喜んでもらえる集会にし、この14春闘を勝利へとつなげる。さらにまた本集会を機に、自らも飛躍を勝ち取る。これが長崎集会の持つ意味です。

7、日本の曙、長崎へ。

自然でいうと、長崎は日本で一番の日の出が遅い県です。しかし近代社会の夜明けは、長崎からでした。

歴史によれば、1890（明治3）年、長崎港外の高島炭鉱（グラバーが興した）で、炭鉱夫300人が賃下げに抗議して暴動を起こし、異人部屋を焼き討ちにし、機会場も破壊されたため、軍隊が鎮圧に出動しました。この事件は、近代的炭鉱での最初の闘いとして知られます。（大原社問研、社会労働運動史から）。

古くは 400 年前の鎖国時代、日本で公的には唯一、出島を開港した長崎。そこは世界の新しい風を肌で実感できる地でした。まさに進取の長崎です。そして 146 年前の明治維新の魁となった長崎の地で、また日本の労働運動の父=高野房太郎出生の地・長崎で、今回、日本労働運動の重大な分岐の中に春闘討論集会を開くことの意義は深いものがあります。

こうした決意で、全国の仲間が、坂本竜馬、福沢諭吉らも難渋しながらも越えた「日見峠の関所」を突破し、長崎結集がなれば、14 春闘勝利はもちろん、日本労働運動の明日への新しい第一歩が踏み出せます。

がんばれ！郵産ユニオン長崎、がんばれ、長崎全労協！ がんばろう！
全国の働く仲間たち。

記

名称：14 春闘・西日本春闘討論集会

日時：2014 年 2 月 23 日（土）13 時～23 日（日）12 時まで。

場所：長崎地区労会館 2 階大会議室。（長崎市桜町 9-6）

参加費：懇親会費を含み、4000 円、非正規、争議団 3000 円。

会議のみ参加 500 円（資料代など）

申込期限：2 月 15 日まで。

主催：集会実行委員会

実行委員長：高口美和子（郵政産業労働者ユニオン長崎中郵支部長）

副実行委員長：本村 真（全国一般全国協・ユニオン北九州・委員長）、

〃：井原東洋一（長崎市議、被爆者手帳友の会代表）、

〃：川口英治（福岡ゼネラルユニオン・委員長）、

〃：中島義雄（長崎全労協・議長）

事務局長：山田武明（郵政産業労働者ユニオン長崎中郵支部・書記長）

事務局次長：向井宏（郵政産業労働者ユニオン長崎中郵支部・執行委員）

実行委員：見口要（郵政産業労働者ユニオン北九州支部・支部長）

〃：小杉徳寿（ユニオン差別を許さない長崎支援共闘会議副代表）

〃：深浦義孝（元、鉄建公団訴訟原告団長崎）、

〃：長渡明夫（元、鉄建公団訴訟原告団長崎）、

〃：野口賢治（元、鉄建公団訴訟原告団長崎）

〃：川瀬正博（全九電同友会・事務局長）、

〃：荒木賢三（ユニオン差別を許さない長崎支援共闘会議）

〃：山本恭郎（郵政産業労働者ユニオン長崎中郵支部・副支部長）、

〃：松江國晴（郵政産業労働者ユニオン長崎中郵支部・執行委員）、

〃：原田芳博（郵政産業労働者ユニオン長崎中郵支部・執行委員）

〃：濱崎直樹（郵政産業労働者ユニオン長崎中郵支部・執行委員）

現地の事務局、連絡先を郵政産業労働者ユニオン長崎中郵支部

〒 852-0056 長崎市恵美須町 1-1 長崎中郵内

☎ 095-828-1953 E メール u-nagasaki@yuseiunionkyusyu.jp